

## セサミストリートを読む研究会

(第5章) A Review of Research on the Educational and Social Impact of Sesame Street

By Keith W. Mielke (Children's Television Workshop (retired))

発表者：関西大学大学院 寺嶋浩介

- ・これまでのセサミ評価研究の歴史について。
- ・研究の変遷。
- ・対象の分け方をどのようにするか。
- ・セサミが他の番組と違うところは？
  - ・高い作品の質
  - ・トピックの多様性
  - ・研究を通して番組の発展をねらっているところ。
- ・CTW に委任されたリサーチグループが行う効果研究。後に研究結果を共有するようになった。今では、他の番組よりも多くの研究がある。
- ・ the dimension of long-term effects to this body of knowledge
- ・初期はゴールの設定に関心が払われた。

### THE ROLE OF RESEARCH AT CTW

#### Goals of Sesami Street

初期には決まったターゲットがなかった。

ターゲットとする年齢は3歳から5歳になっていった。

多様な視聴者（地域の違いなど） 明確なゴールの設定

視聴者の教育的なニーズが分析され、適切な目標が設定された

five broad areas of goals for sesami street

social, moral, and affective development

language and reading

mathematical and numerical skills

reasoning and problem solving

preception

letters and numbers に強調されがちだが、それは間違いだ。

認知的なものも含まれている。

#### Goal-Based Research

audience をひきつけるものだけではなくて、教育効果のある番組を

地域性の違いにも着目していく

2つの評価

- ・ formative evaluation 改善のためのフィードバックが得られるような評価
- ・ summative evaluation どのように効果があるか。最終的なもの。

## IMPACT ON ACADEMIC KNOWLEDGE AND SKILLS

### Evaluation of Seasons 1 and 2

番組が始まる前に、CTW は Educational Testing Service(ETS)を計画した summative evaluation のため

#### **Planning**

測れるものへのためらい (Ball)

economically, geographically, and ethnically

一般的には、treatment group (番組を見る) と control group (番組を見ない) の比較

26 週の放送を視聴する前後にテストされた

knowledge of the alphabet and numbers

names of body parts

recognition of forms

knowledge of relational terms

sorting and classification skills

期待された結果は得られず

#### **four levels**

週に 5 回以上セサミを見る

4 回から 5 回見る

2 回から 3 回見る

それ以下か見ないか

#### **Data**

・ 3 歳から 5 歳視聴者で、番組をもっとも良く見たグループが良い成績残した。番組を見るにつれて成績が上がっていった。

・ 映像により多く取り上げられているトピックのほうが、あまり取りあげられていないものよりも  
より学ばれる

・ インフォーマルに家で見たときと教師の下で学校で見たときの成績は同じ

・ どの分け方でも結果は支持された。

・ 次の年には school readiness との関係を見た。番組を見ているものが高かった。

#### **Sesame Street in Social Context**

シリーズ自体の学習効果ではなくて、encourage の効果

### ***Encourage to View in Naturalistic Contexts***

encouragement effect に焦点があたる

ただ、セサミの効果かどうか判断するのが難しい

1970年の第1年目、1971年の第2年目のETSのsummative evaluation reportは注目すべきもの。

セサミの教育効果を提供しただけでなく、文献としても重要。

比較よりも、効果の原因を求める研究へ。

### **Language Acquisition**

#### ***A Longitudinal Study***

認知的な効果への変化。番組自体の評価ではない。

子どもがテレビをよく見ることは知られているが、テレビから新しいvocabularyを獲得しているかは調べることができていなかった。

2年にわたって326人の子どもを。

テレビ日記。6ヶ月のインターバルの比較。

vocabularyの獲得については、Peabody Picture Vocabulary Testを利用。親兄弟の情報も。

・3歳から3.5歳からセサミをみると、5歳にはボキャブラリの良いスコアが出る。

しかし、5歳から5.5歳からの視聴は7歳時の結果を予測しない。

・マンガのように教育的な意図なしにみると、効果がない

・両親と一緒にみると効果あり

・親の教育、家族の数、子どもの性別、親のテレビに対する態度に関わらず、セサミをみると、ボキャブラリが増える

#### ***Home Video Study***

家でのビデオ視聴と家で通常に見たものとの比較

1年間、2歳から5歳、20人で、ビデオ撮影による観察。cognitive skillsのテスト。

長期間見て、良い結果を収める。

#### IMPACT ON SOCIAL BEHAVIOR

テレビの教育的活用において、social effectに関しては、否定的な見解が述べられてきた(暴力的なものなど)。効果的であるという結果を示している論文は少ない。

prosocialなものは測りにくい。

### **Empirical Data**

Paulson(1974)

cooperationに焦点を当てた

番組を見た子どもと見ていない子どもの比較

OPTIC(Oregon Preschool Test of Interpersonal Cooperation:a picture recognition test) observation from free play によって評価された

見ているグループのほうが肯定的な結果をおさめた

Leifer(1975)

nine videotapes of prosocial Sesame Street segments,three for each of three experimental conditions

主として観察法を用いて

prosocial learning effects がみられる。モデルがビデオテープにあるときに。

Bankart ら ( 1979)

テレビをおいた観察法

prosocial behavior を増やすこととはとは関係なし。攻撃性は減少した。

Zielinska ら ( 1995 )

8つのデイケアセンターで 150 人の子どもを対象。

観察から cognitive, prosocial in content の行動を抽出。

これらのデータを

positive interaction, cooperation, helping, giving, sharing, turn taking などに

・多くの研究では、prosocial segments を見たものは活動するとき高い prosocial behavior を発揮できる

・セサミは social behavior に重要なインパクトを与えた。しかしその根拠は cognitive effects ほど強くないし、論文も少ない。

## Conclusion

Early learn はすぐに出る効果だけではなくて、長期的に見た視点からも重要である。調査はそのための効果を示している。

## ひとつこと。

何をどういう方法ではかろうとしているか、というような評価の実際が参考になる。

Academic knowledge and skills のようなもの

prosocial behavior のような質の異なるものを測ろうとしていることが参考になる。

測りにくいものをどう測るか？ ( 測らないという人も・・・学力論争 )

幼児からのデータをどう取るか。